

# タレントイメージ調査 100 回で人気度 1 位を最も多く獲得したのは 男性タレントでは「明石家 さんま」、女性タレントでは「綾瀬 はるか」

～50 年で 100 回実施のテレビタレントイメージ調査の歴史を振り返る～

ビデオリサーチは、テレビで活躍するタレント・有名人 1,000 人の知名度・人気度・イメージ評価データを「[テレビタレントイメージ調査](#)」として 1973 年から毎年 2 回、50 年間で 100 回\*調査してまいりました。これまでで人気度 1 位を最も多く獲得したタレントを男女別に算出いたしましたのでお知らせいたします。

※第 101 回が最新調査回ですが、2021 年 2 月度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を中止したため、調査実績は 100 回です。

## ■ 男性タレントでは「明石家 さんま」が通算 20 回の人気度 1 位を獲得

1980 年代後半から、「明石家さんま」がバラエティ番組のみならず『男女 7 人』シリーズなどのドラマ出演で驚異的な人気を博し、通算 20 回もの首位を記録。時代を越えて長く支持されていることがわかります。

ビデオリサーチ  
タレントイメージ調査 100 回記念  
歴代タレントイメージ調査年表 **【男性タレント編】**

1973 年より調査開始し、毎年 2 回の調査を行ってきたビデオリサーチのタレントイメージ調査は 2023 年で調査実績 100 回を迎えました。人気タレント調査を通して見えるのはその時代の背景。約 50 年の調査の歴史を男性/女性タレント別でまとめました。

1973年2月度調査	1983年2月度調査	1993年2月度調査	2003年2月度調査	2013年2月度調査	2023年2月度調査
1 渥美 清 2 加藤 剛 3 堺 正章	1 萩本 欽一 2 王 貞治 3 石原 裕次郎	1 ビートたけし 2 西田 敏行 3 所ジョージ	1 明石家 さんま 2 所ジョージ 3 ビートたけし	1 阿部 寛 2 明石家 さんま 3 イチロー	1 サンドウィッチマン 2 大谷 翔平 3 阿部 寛
1973>>>	1983>>>	1993>>>	2003>>>	2013>>>	2023>>>

高度成長期から  
オイルショックへ  
オイルショックにより、経済成長率10%以上という高度成長期に終わりを告げた1970年代。

選オboom、バブル景気  
バブル景気に沸いた1980年代、バラエティ番組が多く生まれました。

バブル崩壊、冷戦の終焉  
バブル崩壊、湾岸戦争、ソ連消滅といった大きな社会変革のうねりの中で迎えた1990年代。

IT革命、リーマンショック  
IT革命によるデジタル時代の到来、リーマンショックで世界的な金融危機に陥った2000年代。

東日本大震災、スマホの普及  
2011年に東日本大震災が発生する前後でスマートフォンが一気に普及しました。

コロナ禍を経て  
新しい生活へ  
新型コロナウイルス感染症により生活が変貌。アフターコロナに向け新たな生活が始まります。

初回のランキングは、渥美清が1位に。代表作「男はつらいよ」シリーズは、テレビドラマの好評を経て映画化され、年に2回のペースで上映。渥美清の人気も上昇し、調査開始から79年までの77回で6回、首位に輝いています。

「欽ちゃんのドンとやってみよう!!」などで多くの視聴者を惹きつけた萩本欽一は、70年代後半から80年代前半にかけて通算4回の首位を獲得。また、王貞治は756号のホームラン記録を樹立した翌78年の調査から連続10回の首位を記録しました。

タレント人気では、レギュラー番組を週に何本も抱えるビートたけしが90年代5回連続1位を獲得。「釣りバカ日誌」シリーズで活躍した西田敏行や、「ミスタードーナツ」を始め多くのOCMに出演し90年代だけで9回首位を獲得した所ジョージも上位常連でした。

「踊る!さんま御殿!!」などでおなじみの明石家さんまが2000年以降12回人気度首位を獲得し、驚異的な人気を博しました。1980年代後半から、実に通算20回もの首位を記録し、時代をまたいで長く支持されていることがわかります。

「下町ロケット」「テルマエ・ロマエ」などに出演した阿部寛が人気度1位を獲得し、通算10回首位を記録。そのほか、選手として1位を獲得したイチローは2011年までに通算9回首位に輝くなど野球だけでなく人気度でも注目を集めました。

選オやコトだけでなく、バラエティ番組、CMと人気を誇るサンドウィッチマンが9回連続で首位を獲得。WB2023で活躍した大谷翔平も上位常連と、実力に基づいた人気を誇っています。

ビデオリサーチ調べタレントイメージ調査全100回  
1位獲得回数歴代ベスト3<男性タレント>

**1** 明石家 さんま (20回)

**2** 所ジョージ (12回)

**3** 阿部 寛  
王 貞治 (10回)

## ■ 女性タレントでは最新調査でも人気度 1 位の「綾瀬 はるか」が通算 16 回 1 位を獲得

「綾瀬はるか」が 2012 年 8 月度調査で初めて人気度 1 位を獲得してから、最新調査 2023 年 2 月度調査までに通算 16 回 1 位を獲得しています。ドラマ『世界の中心で、愛をさけぶ』でブレイクし、その後大河ドラマ『八重の桜』で主演など、ドラマや映画に数多く出演しています。

ビデオリサーチ  
タレントイメージ調査 100 回記念  
歴代タレントイメージ調査年表 **【女性タレント編】**

1973 年より調査開始し、毎年 2 回の調査を行ってきたビデオリサーチのタレントイメージ調査は 2023 年で調査実績 100 回を迎えました。人気タレント調査を通して見えるのはその時代の背景。約 50 年の調査の歴史を男性/女性タレント別でまとめました。

1973年2月度調査	1983年2月度調査	1993年2月度調査	2003年2月度調査	2013年2月度調査	2023年2月度調査
1 八千草 薫 2 池内 淳子 3 森 光子	1 大原 麗子 2 八千草 薫 3 十朱 幸代	1 小泉 今日子 2 安田 成美 3 三田 佳子	1 黒木 瞳 2 久本 雅美 3 樹木 希林	1 綾瀬 はるか 2 浅田 真央 3 天海 祐希	1 綾瀬 はるか 2 新垣 結衣 3 天海 祐希
1973>>>	1983>>>	1993>>>	2003>>>	2013>>>	2023>>>

高度成長期から  
オイルショックへ  
オイルショックにより、経済成長率10%以上という高度成長期に終わりを告げた1970年代。

選オboom、バブル景気  
バブル景気に沸いた1980年代、バラエティ番組が多く生まれました。

バブル崩壊、冷戦の終焉  
バブル崩壊、湾岸戦争、ソ連消滅といった大きな社会変革のうねりの中で迎えた1990年代。

IT革命、リーマンショック  
IT革命によるデジタル時代の到来、リーマンショックで世界的な金融危機に陥った2000年代。

東日本大震災、スマホの普及  
2011年に東日本大震災が発生する前後でスマートフォンが一気に普及しました。

コロナ禍を経て  
新しい生活へ  
新型コロナウイルス感染症により生活が変貌。アフターコロナに向け新たな生活が始まります。

初回のランキングは、八千草薫が1位に。「岸辺のアルバム」をはじめたドラマ黄金期とも呼ばれる時代を支えた俳優の一人です。80年代以降も長く上位を維持し、人気に裏づけされた活躍ぶりでした。

83年の調査では大原麗子が1位、通算13回も首位を獲得。「少し愛して、長く愛して」のキャッチコピーで知られるサントリーレッドの広告出演も影響していると思われる。また、84年には吉永小百合が初の首位を獲得、通算10回首位を記録するなど人気を誇っていました。

93年の人気度1位は小泉今日子で、5回連続の首位獲得。テレビドラマや数々のCMに登場し「CM女王」と謳われるようになり。また、96年放送の「ロングバケーション」など多くのドラマに出演していた山口智子は、90年代を中心に通算14回も首位を獲得しています。

2003年は「オヤジ、」IT革命によるデジタル時代の到来、リーマンショックで世界的な金融危機に陥った2000年代。2003年は「オヤジ、」など高視聴率を記録したドラマに数多く出演した黒木瞳が人気度1位。また、2000年代は多くの楽曲がドラマやCM主題歌に起用されるアーティストDREAMS COME TRUEも上位常連で通算7回首位を記録しています。

2012年には綾瀬はるかが初の人気度首位。ドラマ「世界の中心で、愛をさけぶ」でブレイクし、大河ドラマ「八重の桜」で主演を務めるなど、実績も人気も確かなものとし、最新調査も含め通算16回首位を獲得しています。

ドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」で脚光を浴びた新垣結衣は、通算12回トップ2入りするなど、根強い人気を誇っています。2000年代後半から2020年代、上位に君臨し続ける天海祐希の確固たる人気ぶりもうかがえます。

ビデオリサーチ調べタレントイメージ調査全100回  
1位獲得回数歴代ベスト3<女性タレント>

**1** 綾瀬 はるか (16回)

**2** 山口 智子 (14回)

**3** 大原 麗子 (13回)

\*当リースの綾瀬はるかさん、山口智子さん、吉永小百合さんの1位獲得回数の記載に誤りがありましたので、訂正いたしました。(2024年2月29日)



Video Research ※「[テレビタレントイメージ](#)」調査概要

調査時期 : 1973～2023年の年2回(2月・8月)調査

調査要領 : 東京駅を中心とした半径30km圏に居住する満10～69歳男女約1,000人を、男性タレント、女性タレントの2系列に分けてそれぞれ調査(1973年2月度～2007年2月度調査は、男女10～59歳を対象に調査)

調査タレント数 : 男性タレント500人、女性タレント500人の計1,000人

\*タレント人気度…そのタレントについて『非常に好き』『やや好き』のいずれかに回答した人の割合(%)

※最新の2023年2月度調査の結果は、下記で公開しておりますので、あわせてご覧ください。

・プレスリリース

【2023年2月度タレント人気度調査結果発表！WBC2023で活躍の「大谷翔平」は2位、「綾瀬はるか」は通算16回目の首位～次回調査から、より充実したキャスティング情報の提供を目的に大幅リニューアルを実施～】

<https://www.videor.co.jp/press/2023/230406.html>

・VR Digest+

【目黒蓮に今田美桜…注目急上昇！あの俳優の人気度は？23年最新ランキング調査より「テレビタレントイメージ」】

<https://www.videor.co.jp/digestplus/media/2023/04/75697.html>

●株式会社ビデオリサーチ

株式会社ビデオリサーチは、テレビも含めた動画ビジネスを支えるデータ&システム会社です。テレビ視聴率データを提供する調査機関として1962年に設立し、以来、日本国内におけるテレビ視聴率調査をはじめとした各種メディアデータやマーケティングデータなど最先端のデータを提供し、企業のマーケティング課題解決のトータルサポートを行っています。